

災害と女の子たち ～ガールズ防災会議 in 仙台～ 報告



@男女共同参画連携会議防災・復興チーム
2015年5月25日
大崎麻子

ガールズ防災会合概要

災害と女の子たち＝グローバル・イシュー

- ✓ 国際的な枠組みとは？
- ✓ 東日本大震災の経験は？
- ✓ 海外の経験は？

ガールズ・エンパワーメント＝レジリエンスの強化

- ✓ ガールズの声聞く。活かす。どのように？
- ✓ ガールズ・エンパワーメント。どのように？

→ 経験の共有・パートナーシップの構築

なぜ今、女の子に注目？

① 国際的な経験・教訓の蓄積

- ✓ 『二重の危機：思春期の女の子と災害』 プランインターナショナル 2013
- ✓ Women and girls（女性と女の子）と併記

② 国際的な重要課題に（日本のリーダーシップ）

国連婦人の地位委員会「自然災害とジェンダー」決議

- ◆ 防災、災害対応、復旧・復興の各段階における思春期の女の子の脆弱性や特別な配慮の必要性を広く共有し、政策・計画・制度に反映させること
- ◆ 防災、災害対応、復旧復興を含む意思決定過程に女性、適切な形で女の子、の参画を確保すること

③ 東日本大震災。女の子たちは？？？

3

東日本大震災の経験から見えてきたことは？

ガールズホーププロジェクト

社会調査 「Tohoku Girls' Voices」

若年女性 20人、支援者7人へのインタビューと既存文書をもとに社会調査を実施
・インタビュー実施：BONDプロジェクト、オックスファム・ジャパン(OJ)、Gender Action Platform(GAP)、東京大学社会学研究所特任研究員・皆川満寿美
・分析・執筆：GAP、皆川、OJ
・編集協力：経済ジャーナリスト 治部れんげ

bond
Project

Gender
Action
Platform

OXFAM
Japan

フリーマガジン VOICES東北 Girls to Girls -声を伝える+直接支援

被災地の10-20代の声と支援者を取材し、フリーペーパー「VOICES東北」を3000部発刊。繁華街での配布、教育機関等を通じた配布により、若年女性に届ける。被災3県の様々な場所でのインタビューを通じて、困難な状況にある女性につながった場合、現地の団体と連携して、適切な支援を行う。

若年女性の支援ネットワークの強化

若年女性の課題を共有し、関連団体の連携を強化し、支援の輪を広げる

当事業実施過程で東北の女性支援団体とBONDプロジェクトが連携強化

bond
Project

若年女性支援において十分な体制が整っていない現状を受け、現在、岩手県・宮城県・福島県にて、その地の支援団体と一緒に若年女性支援強化のための支援者養成講座、オープンセミナー、パトロール等を実施している。

Tohoku Girls' Voices

東日本大震災・被災地の若年女性報告調査と提言

目的: 東日本大震災の被災時・その後の生活における思春期・若年女性の経験を聞きとり・分析し、緊急時・復旧・復興過程における若年女性特有の「脆弱性」「レジリエンス」「支援のあり方」を明らかにすること

脆弱性⇒性差、過程を含む社会構造における位置付け、資源へのアクセスの度合いなどに起因する、じゃくる年女性特有の災害時・災害後のリスク

レジリエンス⇒若年女性が災害前から備えており、災害時のショックから回復する過程で機能した能力・資源

5

調査の対象と方法

対象

- ① 震災時に10代半ば~20代だった女性20名
- ② 支援者・支援団体(助産師、若年女性当事者団体、養護教諭、男女共同参画センター職員等)

方法: 質的調査

- ① グループインタビュー
- ② 個別インタビュー

調査チーム:

若年女性支援団体、社会学者、ジェンダー平等政策専門家、復興支援実務者

6

分析の方法

～対象女性特有の脆弱性及びレジリエンス～
インタビュー記録の整理項目：

- ① 震災前の状況：自尊感情、生活基盤及び家族との関係
- ② 震災時の経験：被災状況、非難の有無、居住環境・人間関係の変化
- ③ 震災後3年間の経験：進路選択などへの影響、家族・人間関係の構築、支援の活用、地域社会の変質の評価、地域復興への参画の機会
- ④ 将来に向けてのビジョン：人生設計、参画意識、方針決定者への希望など地域・社会との関わり方

7

分析の方法

対象者の分類：「レジリエンス度」の高さ

- ① 「自己の人生設計」にビジョンがあり、なおかつ「社会的な視点」を有している
- ② 「自己の人生設計」にビジョンがある
- ③ 漠然とした「将来のイメージがある
- ④ 自分の人生・生活よりも「他者を優先」する

レジリエンス度に影響を与えた要因(災害時・前後)

- a. 状況の認識
- b. 行動力
- c. 生活環境
- d. 人生観

8

分析の結果

レジリエンス度	震災前	震災時	震災後	
1(9名) 将来設計& 社会的視点	自尊感情が高い 自己決定力がある 生活基盤・家族等との人間関係が安定	自発的な行動や 外部からの支援 によって復旧を遂げた	自分の意思で 社会資源を活用 ネットワーク・人間関係を拡大	地域復興に 主体的に取り組みたい
2(5名) 将来設計	自尊感情が高い 家族の生活基盤が安定し、その庇護下にある 居場所がある	家族・友人と助け 合いながら乗り切った		当面の学 業・進路に具 体的な希望
3(4名) 漠然とした 将来イメージ	自尊感情はある 生活基盤は安定 家族との関係は多様だが安定 家族内での地位は常に最下位 自己決定する経験に欠けている	家が全壊・半壊、 家は無事でも家族 で避難	進路の変更 ケアワーク増大 職場の負担増大	漠然とした将 来のイメージ
4(2名) 他者を優先	家族の絆という強い規範 自尊感情はあるが自己決定という概念とは無縁 自己のレジリエンスが他者依存	家族との助け合い		

9

まとめ 若年女性特有の「脆弱性」

思春期・若年女性

- ・ 災害直後の恐怖・不安
- ・ 進路の変更、日常生活・学校生活に伴う不安の増大
- ・ 自分の気持ち、意見、不安を他の人と共有する場が無い
- ・ 「若い人」が軽んじられている
- ・ 経済的に脆弱な状況が選択肢を狭める

支援者・支援団体

- ・ 我慢し、ストレスをため込んでいる
- ・ 支援基盤・相談場所が乏しい
- ・ 自尊感情・自己決定力が育っていない
- ・ リプロの知識と意識が無い
- ・ 地元で若い人が活躍する場が限られている
- ・ 要望・気持ちを伝えたり、権利を主張するのが難しい環境

まとめ 若年女性特有の「レジリエンス」

思春期・若年女性

- ・ 信頼できる人たちとの繋がり
 - ・ インターネット・携帯の活用
- ⇓

- ・ 新たな人間関係
- ・ 社会的な視点
- ・ キャリア形成へのビジョン
- ・ 地元復興に貢献したいという意欲

支援者・支援団体

- ・ 少年上の女性たちとの出会い・繋がり
- ・ 自分の周りだけで完結していない

⇓ (支援をした学生・支援を受けた学生)

- ・ 長期的な視点の獲得
- ・ 新たな価値観の形成
- ・ 尊厳・プライドを持ちなおす
- ・ 地元に残って貢献したいと前向きに

11

提言

- ① 思春期・若年女性の問題の可視化・政策課題化⇒見えるようにする！課題にする！
- ② 地域の復興及び地方創生における若年女性の参画の推進⇒ 声を聞く、声を反映させる！
- ③ 思春期・若年女性のエンパワーメント(自己決定能力の向上)⇒自己肯定感、心と体の健康、適切なリプロ・性の知識、他者との繋がりを！

12

パネルディスカッション どうやって、

① ガールズの声を聞く？活かす？

③ ガールズのエンパワメントを進める？

- 女の子のリーダーシップトレーニング/子ども議会（カンボジア）
- ピア・エデュケーション方式によるリプロ教育（アフリカ・アジア等）
- 女の子主体のコミュニティ・グループ（福島県）
- 行政とガールズに特化したNPOの共同相談事業（東京都）
- 政策課題化・政治的コミットメントの獲得（グローバル）
- 戦略的パートナーシップ（グローバル・国内）

思春期の女の子特有のニーズの把握と対応

脆弱性

リーダーシップ
参画